

# 中南信支部会報

発行：上田高等学校同窓会  
中南信支部事務局  
題字：松岡翠風(仁太郎)氏  
南安轟在住(39期)  
全日展書法会副会長

## 会員の皆様へ 支部長 菅谷昭



中南信支部同窓会会員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で、心豊かに充実した毎日をお過ごしのことと拝察申し上げます。

昨年、松本市において下さり、「講演いただいた作家の五木寛之氏は、『日本は今、"うつ"の時代に入っている。従って、そのような状況の中で、悩みながらも、未来をきちんと見つけて生きていく賢さが求められている』と語っておられました。それにしても、日々新聞に目を通す度に、政治の分野をはじめとする経済・産業界や教育界、そして身近な社会環境等々における様々なでき事に接し、言いようのない不快感が募ります。私はここで無責任な評論家たちの

ようなことは述べるつもりもありませんが、「人間、生きていくことが原罪である」という言葉が、妙に真実らしく思える昨今です。実に悲しく、寂しいことです。戦後、自らの人生や家庭を犠牲にまでして、企業戦士として、わが日本の国づくりのために身を粉にして働き通してくれた方々は、このような国家を創造しようとは決して考えていなかったはずです。今に生きる私たちは、かかる現実を前にして、一体どのように行動すべきか。五木氏の言葉を借りるならば、悩みの中に一筋の光明を求め、賢哲のごとく身を処せたいことでしょうか。

さて、ここで、私自身の状況につきましても、少々書かせていただきます。平成十六年三月、同窓の皆様にもお力添えを賜り、はからずも松本市長に当選して以来、焦らず、気負わず、地道に、そして自分のできる範囲で、二十一年先、三十年先を見据えて、誰もが住んでよかった、住んでみたいと思える街づくりに、市民の皆様とともに取り組んで参りました。

市長就任後は、たゞひたすら一期四年の任期を全うすることだけを考えて、市政運営にあたりつきました。ところが、各界各層の皆様から、多くの市民の皆様から、折角松本の街が変わってきたのだから、是非とももう一期をとのご意見をお聞きする中で、正直のところ大変悩んだ末、初出馬の時と同様、これも私に与えられた運命ではないかとの考えに至り、再度立候補することにしました。本年三月の選挙では、戦後最多の得票数となる多くの市民の信任を賜り、引き続き松本市政を担当させていただくことになりました。たゞ、同窓会の運営にあたり、何かと迷惑をおかけすることになり、深くお詫びを申し上げます。

恒例の支部総会が、来る十一月十五日(土)に開催されます。老いも若きも、「上田健児ここにあり」の意気を共有したいと存じます。大勢の会員諸氏のお顔を拝見したく、心よりお待ちしております。

### ～第15回支部総会のご案内～

日時：11月15日(土)

14:30 開場

15:00～16:45 第一部：総会・講演

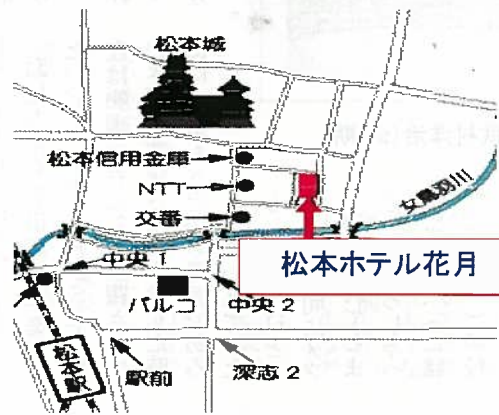
17:00～19:00 第二部：懇親会

会場：松本ホテル花月

松本市大手 4-8-9 電話 0263-32-0114

会費：¥8,000(学生の方は¥4,000)

第一部のみ参加される方で、'08年度支部年会費千円を払われている方は無料です。返信葉書で出欠をお知らせください。



### 記念講演 「うつ」の時代を生きる「大人の生きる力」 伊藤かおる氏

「コミュニケーションズ・アイ」代表取締役、長野県教育委員会委員

- ・松本市出身、立命館大学産業社会学部卒業
- ・R&D総合研究所(東京都)において、生活者調査・研究、エリアマーケティング調査、企業内教育研修指導等に従事
- ・メンタルヘルス及び企業内教育研修、OA技術習得指導、マーケティングを主業務とする「コミュニケーションズ・アイ」を設立
- ・長野産業保健推進センター産業保健相談員  
長野県社会保険協会保険事務所メンタルヘルス研修講師  
ポリテクセンター松本、松本大学・松本大学松商短期大学などの非常勤講師  
公職として長野県中期総合計画策定委員、長野県男女共同審議会委員、松本市商工業振興審議会副委員長 他多数の要職にてご活躍中



### 職場訪問 相澤病院の巻

今回は中信地方で最大規模民間病院の相澤病院にお邪魔しました。

相澤病院では、同窓会中南信支部の初代支部長を努められた小林茂昭さん(54期)が脳卒中・脳神経センター長として活躍されているのをはじめとして、多数の上田高校卒業生が医療に携わられています。

まずお会いしたのは近藤沙織さん(96期)。信州大学医学部での研修を終え、初めての勤務先が相澤病院という若き産婦人科医です。



近藤 沙織 さん

近藤さんは東部町滋野の出身。高校時代は吹奏楽部に所属。中学時代から吹奏楽部でサックスを担当していたこともあり、高校ではアルトサックスからふたまわりも大きいバリトンサックスを担当。「低音がとても魅力的なんですよ！」とのこと。当時の上田の吹奏楽班は結構強く、夏の県大会を経て秋の東海

大会にも出場。そのかわり、盆と正月以外は休日返上で練習の毎日だったそうです。

医師という職業を意識し始めたのは、小学校六年生の時に母様を病気で亡くされた頃。ご本人は「手に職をつけて早く自立しなければと思ったんです」とおっしゃっていますが、人の命を病気で奪うから守りたいという志が芽生えたのでしょうか。

産婦人科では診断から出産や治療まで、最初から最後まで妊婦さんや患者さんと関わりをもつことができること、また女性の医療において女性の医師であることが、患者さんに安心感をもってもらいやすい医療ができます。それが、様々な分野の中で近藤さんが産婦人科医の道を選んだ理由だそうです。

現在、相澤病院産婦人科の医師は二名で、大学医学部からの応援もあるものの、二日に一回は当直になります。休日は一ヶ月に一回。プライベートの時間も病院に急行するのに三十分以上かかることや、携帯電話の圏外には極力出かけ

ないようにしているそうです。(勤務役を担えること、責任をもてる立場にあることにやりがいや喜びを感じるそうです。また、自分自身そして周りの人々が生き生きとするために何かできないかと考え、病院内で音楽サークルを立ち上げました。その名も「相澤室内管弦楽団」。時々病院のロビーで演奏会をしているそうです。

お話をうかがっている間に、何回も電話がかかってくるほど忙しい中、笑顔を絶やさず澁刺とした態度でお話いただき、とても爽やかな気持ちになりました。たいへんお仕事ですが、近藤さんを待っているためにもご自身も体を大切に、これからもがんばっていただきたいと思いました。近藤さんにエールを贈ります。

続いてお会いしたのは脳神経外科統括医長の北澤和夫さん(76期)。前出の小林さんがセンター長を努



北澤 和夫 さん

められている脳卒中・脳神経センターの副センター長でもあります。また、同窓会中南信支部の幹事も引き受けていただいています。

北澤さんは上田市古里の出身。小さい頃は家の中にいるよりも、外で動物や植物と触れ合うことが好きなお子さんでした。家の裏のりんご園(実家はりんご園を営んでいます)で遊んだり、庭の池の魚を繁殖させたりしたことを思い出そうと、お兄さんも上田高校卒業で、たいへんな俊才だったそうです(現在は物理学者として活躍されています)、北澤さんが入学した時には、「弟もさぞかし優秀であろうと思われていた

ようだったけど、あつという間にメツキが剥がれてしまった」とおっしゃっています。ご謙遜ですね。高校時代は木造校舎から鉄筋校舎へ建て替える時期に



旧開智学校 画 武村洋治(58期)

にありました。生活費を切り詰めるため、シャワーの無いアパートでインスタント食品での生活をおくるような困難に直面していた方もいたようです。

竹内さんご夫妻宅でのホームステイの話は先出の台湾からの留学生の姉妹、そしてその友人へと広がっていき、毎年ご夫妻の元で留学生の誰かしらが生活するようになっていったそうです。出身国も台湾、中国、マレーシアからモンゴルまで、様々な地域からの留学生を受け入れました。竹内さんはとても寡黙な方だったそうですが、留学生の日本文化に対する理解を深める手助けをしようと、百人一首を教えた

り、観光名所や歴史的遺跡に連れていったりしたそうです。

竹内さんが亡くなる前年の平成八年に奥様の還暦を祝うために、日本在住の竹内さんご夫妻宅のホームステイ卒業生が集まりました。皆さん、各方面で活躍されているそうです。また竹内さんご夫妻と留学生との心温まる交流が同年十月二十三日の人民日報海外版に掲載

もありました。世界を股にかけて活躍するであろうお兄さんを見ながら、自分は今地に残ろうといつしか考えるようになりました。

子供のころからの生き物への興味も手伝ってか、信州大学医学部へ進み、医師への道を歩き始めます。

当時、脳外科医療は進歩の著しい分野でした。顕微鏡を覗きながら行う脳の手術をテレビでご覧になった方も多いと思います。このシステムの開発に大きな貢献をされたのが、当時の信州大学医学部の杉田教授と小林助教授(前出の小林さん)でした。これは杉田システムと呼ばれているそうです。医学界の花形分野で最先端を担う信大の脳外科を北澤さんは選択し、現在にいたるのです。

脳外科という、人の命に直結する医療に従事することは大きなストレスを伴うものですが、手術が成功して元気になって退院していく方を送り出すときに、やりがいや生きがいを感じるそうです。クールな雰囲気の中に熱い想いを秘めた脳外科医療のリーダーとして、これからも活躍いただきたいと思います。

### 卒業文集から(第一回)

事務局に一冊の文集が届けられました。昭和二十一年度(46期)卒業の五組卒業文集復刻版です。題名は『熊乃子』。発行は「野鶴會」と記されています。昭和二十一年は太平洋戦争終戦の翌年。激動の時代に青春時代を過ごされた皆さんの思いが綴られています。



この文集をご提供いただいたのは母袋悦男さんと相澤忠一さん(共に46期)。相澤さんも時折この文集を読み返すと、当時の思い出が瑞々しく甦るそうです。

文集に、『熊乃子』、『野鶴會』命名の経緯について触れている一節があります。担任の山際先生のニックネームが「クマ」だったということもあったようです。母袋さん、相澤さん両氏の同期生の竹内敦さん(46期)の日記の抜粋ですが、引用させていただきます。

「日記の追憶」竹内敦 昭和二十一年八月二四日

代数体操自習のためかねて考案中の卒業記念雑誌の題名を投票選抜す。山極先生も出され多数の秀題名があり、選抜に苦心したが我々の大多数の賛成した結果、会名に森君の文学的才能より提出の「野鶴」と決定。雑誌名に、一秀才提出の「熊の子」と決定す。

野鶴とは「若野鶴之在鶏羣」と云ふ古文中にあり、衆中へて云ふとの意、轉じて此の五組が獨り抜き出で、何時迄も立派なる組との意である。又「熊の子」とは読んで字の如くである。流石に山極先生も顔負けした感あり。我々五組は此の野鶴會を永續し、母校上中のため最善の努力をし併せて新日本再建に努めようではないか。

最後に我が日頃愛吟せる「壁に題す」の詩を掲げ共に高らかに朗吟しよう。

男子立志出郷関 学若不成死不還 埋骨豈期墳墓地 人間到處有青山

この寄稿を紐解く中で、竹内さんが既に故人であること、また亡くなるまで中国を初めとしたアジア各国からの信州大学への留学生の面倒を見ていたことを知ることができました。故竹内さんの奥様(竹内か称代様)にお話を伺うことができましたので、ご紹介したいと思います。



竹内さんご夫妻

竹内さんご夫妻が留学生の面倒を見始めたきっかけは、竹内さんの会社でアルバイトで働いていた台湾からの留学生が住まいを探しており、その相談のつたことでした。当時、家賃や生活費が高い日本での留学生生活を維持するため、海外から来た私費留学生は工場や飲食店でアルバイトをせざるを得ない環境



奥様の還暦のお祝いのひとコマ

卒業文集に記されていた「新日本再建に努めよう」という竹内さんの志は、国際交流・国際貢献というかたちでも、花を咲かせたのです。

ご主人が亡くなられてからもしばらくは奥様も留学生の受け入れを続けられ、今でもホームステイ卒業生との交流は続いているそうです。最後に、この文集をご提供いただいた母袋悦男さんと相澤忠一さん、そしてお話を伺わせていただいた竹内さんの奥様のか称代さんに改めて御礼申し上げます。

**岡田英雄(42期) 南箕輪村**

今年で八十三歳になりました。昨年、地元の伊那国際ゴルフクラブでグロス82、今年79で廻り、周りにエージシユートだと騒がれました。元気でやっております。

**保科敦(44期) 諏訪市**

昨年八十歳を迎えました。上中時代に名古屋の方へ学徒動員、終戦後は形ばかりの



卒業証書を片手に諏訪の方へ移りました。先年、校門を眺めなつかしく思いました。

**花岡良一(45期) 松本市**

体調は年と共に衰えますので、早朝のウォーキング、読書、脳の活性化につとめます。

**林庄平(52期) 下諏訪町**

健康を害して居ることゝあ

り、時間に制約されることからは遠退いて、孫育て支援に励んでいます。

**藤澤良彦(52期) 松本市**

童謡・唱歌普及のため保育園や小学校に働きかけ、若い層にその良さを歌つて伝えていきます。またベートーベンの第九演奏会の県下連絡協議会の結成に向け動き出します。

**小林俊夫(56期) 松本市**

呼吸リハビリテーションという新しい分野を勉強しています。

**池田誠一(58期) 安曇野市**

ISO9001の登録審査員とコンサルタントとして、まだ現役で仕事をしております。

**荻原迪彦(58期) 松本市**

平成二十年秋の着工を目指して、目下安曇野赤十字病院建設事業に着手しています。走り続けて卒業後四十年が過ぎてしまいました。

**山崎英俊(74期) 岡谷市**

岡谷に来て十二年が過ぎました。昨夏、恩師清水周先生をかこんで約三十年ぶりの

同級会を開き、懐かしい顔に出会いました。岡谷で脳外科の医師をしています。

**鎌倉清子(84期) 松本市**

三年ぶりに昨年から中学校に勤務しています。生徒とのやりとりの中からパワーをもらっています。我が子も中学二年と小学六年になりました。小六の娘の担任の先生は上田高の先輩！毎日楽しく過しています。

**会費納入へのお礼**

支部財政の逼迫状況改善のため、昨年度より会費制(年会費として1,000円)を導入し、100名程度の会員の皆様から会費を納入いただきました。ご理解とご賛同に御礼申し上げます。

支部財政はようやく健全化に向けて動き出しましたが、安定的運営に向けては未だその途上にあるといえます。今年度も振込票を同封させていただきますので、引き続きのご協力をお願い致します。限られた予算での効率的、効果的な運営に引き続き努めて参ります。

**職域幹事変更のお知らせ**

県職員関係の職域幹事の大日方正明さんの転勤に伴い、後任として、林信一さん(松本地方事務所、74期)が職域幹事となりました。

**編集後記**

職場訪問でうかがった相澤病院の近藤さんをはじめ、若い方が社会で活躍されています。支部総会にも100期の方の出席がありました。上は39期から100期まで、その幅60年と出席会員層も厚くなって参りました。総会で旧交を温めてみませんか？お待ちしております。

**月例会へのお誘い**

中南信支部では、毎月幹事会を開催しています。久保田前幹事長(現副支部長・61期)の「沙龙的な会にしたい」の方針を受け継ぎ、幹事以外でも最近長野支部からの参加もあります。気楽な会ですので、皆さんお気軽にお出かけください。都合で日程変更になる場合もありますので、伊藤(090-4542-2266)に確認ください。場所は駅前の「たぬき」(0263-35-9596)、第一月曜日、午後7時からです。

